

〈ばれいしよ〉 ケラ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダイアジノン粒剤5	I:1B	植付前	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和

〈ばれいしよ〉 アブラムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫14日前まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	収穫7日前まで	2回以内	散布
スカウト乳剤	I:3A	収穫前日まで	5回以内	散布
セフィーナDC	I:9D	収穫前日まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ペイオフME液剤	I:3A	収穫7日前まで	4回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	4回以内	散布
ベネビアOD	I:28	収穫7日前まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫7日前まで	3回以内	散布
アクタラ粒剤5	I:4A	植付時	1回	作条混和

〈ばれいしよ〉 ワタアブラムシ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫前日まで	5回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	2回以内	散布

〈ばれいしよ〉 オオニジュウヤホシテントウ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫14日前まで	2回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ニジュウヤホシテントウ

1. 林地の近くは早発しやすいので注意する。
2. ランネート45DFは薬液の調合や散布時に薬液を吸入しないように、マスク、メガネを着用する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エルサン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	2回以内	散布

〈ばれいしよ〉 テントウムシダマシ類

1. 林地の近くは早発しやすいので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫14日前まで	3回以内	散布
アディオン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	4回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布

〈ばれいしよ〉 テントウムシダマシ幼虫

1. 林地の近くは早発しやすいので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オルトラン水和剤	I:1B	収穫30日前まで	2回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ジャガイモガ

1. 収穫後、掘取ったいもは産卵防止のため、その日のうちに屋内に搬入しておおいをする。
2. 掘取ったいもには薬剤散布しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベネビアOD	I:28	収穫7日前まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ジャガイモガ若齢幼虫

1. 収穫後、掘取ったいもは産卵防止のため、その日のうちに屋内に搬入しておおいをする。
2. 掘取ったいもには薬剤散布しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
パダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫7日前まで	6回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ヨウムシ

1. 幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるので早期発見、早期防除に努める。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エルサン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	2回以内	散布
トクチオン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	3回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ハスモンヨトウ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫7日前まで	2回以内	散布

〈ばれいしよ〉 ネキリムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガードバイトA	I:3A	生育初期	4回以内	株元散布
ダイアジノン粒剤5	I:1B	植付前	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和

<ばれいしょ> 青枯病

1. 発病株は抜き取って処分する。
2. 発病ほ場は5～6年間ナス科作物の栽培をやめる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫3日前まで	6回以内	散布 土壌くん蒸 土壌くん蒸 土壌くん蒸 土壌くん蒸 土壌くん蒸 全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロールピクリン	I:8B		1回	
クロビク80	I:8B		1回	
ドジョウピクリン	I:8B		1回	
ドロクロール	I:8B		1回	
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
ソイリーン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロルピクリン錠剤	I:8B		1回	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

<ばれいしょ> 疫病

1. 開花期頃から急に病勢が進むことが多いので注意し、薬剤散布は葉の裏面にも十分付着するように努める。
2. 発病したときには土寄せを行って土中のいもを保護する。
3. 一般に早生は罹病しやすく窒素肥料を多用すると生育が軟弱となり、罹病しやすい。
4. 罹病いもは早く処分する。
5. 収穫は好天を選び、十分乾燥させた上貯蔵する。
6. 同一成分を含む薬剤は、成分毎の総使用回数に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
エキナイン顆粒水和剤	F:40(H5)・F:27(U)	収穫7日前まで	4回以内	散布
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫14日前まで	7回以内	散布
カーゼートPZ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫7日前まで	4回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
クミガードSC	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	-	-	散布
ジーファイン水和剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
ジマンダイセンDF	I:UN/F:M03(M)	収穫7日前まで	10回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫7日前まで	10回以内	散布
ゾーベック エンカンティア	F:11(C3)・F:49(F9)	収穫14日前まで	3回以内	散布
SE				
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
フェスティバルC水和剤	F:40(H5)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
プロポーズ顆粒水和剤	F:40(H5)・F:M05(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫7日前まで	10回以内	散布
ホライズンドライフロアブル	F:11(C3)・F:27(U)	収穫14日前まで	4回以内	散布

ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫7日前まで	4回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫7日前まで	4回以内	散布
リドミルゴールドMZ	I:UN/F:M03(M)・F: 4(A1)	収穫30日前まで	1回	散布
リライアブルフロアブル	F:28(F4)・F:43(B5)	収穫7日前まで	3回以内	散布
レーバスフロアブル	F:40(H5)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<ばれいしょ> 黒あざ病

1. 植付直前の処理が効果が高い。
2. 種いもが濡れたり多量の湿った土がついている時はよく干して土を払い落とす。
3. 種いもは切断処理する時は切断面が十分乾いてから処理を行う。
4. 処理いもを食用や飼料に転用しないこと。
5. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタッキン水和剤	F:1(B1)・F:25(D4)	植付前	1回	種いも散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	植付前	1回	種いも散布
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	植付前	1回	種いも瞬間浸漬
バシタック水和剤75	F:7(C2)	植付前又は貯蔵前	1回	5～20秒間種いも浸漬
バリダシン液剤5	F:U18(U)	貯蔵前又は植付前	1回	瞬時～10分間種いも浸漬
リゾレックス水和剤	F:14(F3)	貯蔵前又は植付前	1回	種いも浸漬(10分以内)
モンカット水和剤	F:7(C2)	植付前	1回	10分間種いも浸漬又は種いもに十分量散布
バリダシン粉剤DL	F:U18(U)	植付前	1回	種いも粉衣
ベンレート水和剤	F:1(B1)	植付前	1回	種いも粉衣
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	植付時	1回	植溝内土壌散布
アタッキン水和剤	F:1(B1)・F:25(D4)	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬

<ばれいしょ> そうか病

1. 一般に酸性土壌で発病しにくく、アルカリ性土壌で多く発生する。
2. 土壌温度が11～30℃で発病し、適温は20～22℃である
3. 一般に土壌湿度が低く、通気が良い方が発病が多い。
4. バレいしょのそうか病菌はダイコンにも寄生性がある。
5. 露地太陽熱消毒 7月中旬(梅雨明け直後)から8月にかけて(1か月)、耕土が十分に湿るように散水し、ポリエチレン又はビニルフィルムで被覆する。
6. アルカリ性土壌の多発ほ場では土壌pHを低くする。
7. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタッキン水和剤	F:1(B1)・F:25(D4)	植付前	1回	種いも散布
ヨネポン水和剤	F:M01(M)	植付前	1回	種いも吹き付け処理
ネビジン粉剤	F:36(U)	植付時	1回	全面土壌混和
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	植付前	1回	全面土壌混和
ネビジン粉剤	F:36(U)	植付時	1回	作条土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	植付21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す
バスアミド微粒剤	I:8F	植付21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す
クロールピクリン	I:8B		1回	土壌くん蒸
アタッキン水和剤	F:1(B1)・F:25(D4)	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬

<ばれいしょ> 夏疫病

1. 開花期頃から急に病勢が進むことが多いので注意し、薬剤散布は葉の裏面にも十分付着するように努める。
2. 発病したときには土寄せを行って土中のいもを保護する。
3. 一般に早生は罹病しやすく窒素肥料を多用すると生育が軟弱となり、罹病しやすい。
4. 罹病いもは早く処分する。
5. 収穫は好天を選び、十分乾燥させた上貯蔵する。
6. 同一成分を含む薬剤は、成分毎の総使用回数に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター20フロアブル	F:11(C3)	収穫7日前まで	3回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫7日前まで	10回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
ホライズンドライブフロアブル	F:11(C3)・F:27(U)	収穫14日前まで	4回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	4回以内	散布

<ばれいしょ> 軟腐病

1. 同一成分を含む薬剤は、成分毎の総使用回数に注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	3回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫7日前まで	3回以内	散布
カセット水和剤	F:24(D3)・F:31(A4)	収穫7日前まで	3回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	-	-	散布
スターナ水和剤	F:31(A4)	収穫7日前まで	5回以内	散布
フェスティバルC水和剤	F:40(H5)・F:M01(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布

<ばれいしょ> 粉状そうか病

1. 一般に腐植に富む土質で保水力が強いか、排水の悪い場所に発生が多い。
2. 塊茎形成期に冷涼で降雨が多いと発生が多い。
3. 健全いもを用いる。罹病いもと、病土が伝染源であるので未発生ほ場には罹病いもや病土を持ち込まない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フロンサイド粉剤	F:29(C5)	植付前	1回	全面土壌混和
オラクル顆粒水和剤	F:21(C4)	植付前	1回	全面散布後土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	植付21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	植付21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する